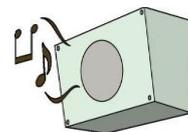




◆七夕の話／身の回りの事や自然の力に感謝しながら願い事を書こう！～ 7/13 全校朝会

7月7日（火）に全校朝会を実施する予定でしたが、鹿島市に大きな被害をもたらした大雨による臨時休校のため実施できませんでした。

そこで、一週間遅れとなりましたが、13日（火）に、本年度第3回目となる全校朝会を校内放送で実施いたしました。今回は、七夕の話をしました。



<七夕の話>

明日7月7日は、七夕ですね。今日は、七夕の話をしたと思います。

七夕と言えば、織姫と彦星の天の川伝説が有名ですが、このお話は、もともと、中国のお話で、七夕の節句が日本に伝わってきたのは、今から1000年以上も昔（奈良時代）のこととされています。どんな話だったかという、—



昔々、機織りがとても上手な織姫と、牛使いでとても働き者の彦星がいました。この2人は、織姫の父親のすすめで結婚します。ところが、とても仲のよい2人は仕事を全くしなくなったのです。その様子を見ていた神様が、怒ってしまい2人の間に天の川をつくって、2人を離れ離れにしてしまいました。すると2人は、今度は悲しみに明け暮れるばかりで益々働かなくなってしまったのです。そこで、年に一度だけ（7月7日に）、しっかりと働くことを条件に、2人が会えるようにしたという話です。

ですから、七夕の短冊に書く願い事は、「何々がほしい」とか「どこへ行きたい」とかいうことを書くのではなく、働くこと、すなわち、お仕事に役立つような、習い事や勉強など上手になりたいとか、できるようになりたいとか、また、なりたい仕事のことなどを短冊に願いを込めて書くことが正しい、ということをまずは知ってほしいと思います。

次に、七夕の笹に付ける飾りについてお話します。七夕の笹につける飾りですが、みなさんは、どんなものがあるのか知っていますか。そして、それぞれの飾りには意味があることを知っていましたか。

菱（ひし）飾りは、天の川を表しているそうです。貝飾りは、海の恵み、提灯は、願い事を照らすあかり、網は、大漁と自然の恵みを表しています。この他にも、折鶴は、健康と長生きを、織姫と彦星は永遠の愛情を表しています。つまり、これらは、私たちの身の回りにある大切なものを表しています。そして、そのような大切なものに囲まれて、自分の願いを書いた短冊をつるすのです。ですから、ただ、願い事を書くだけではなく、身の回りのものに感謝しながら書くことでは、願い事の重みもずいぶん違ってくる

ではないでしょうか。

みなさんが、普段当たり前とと思っている身の回りの事でも、いろいろな人や自然の力で成り立っていることがたくさんあります。今日の話聞いて、七夕の飾りを見た時、そうした事にも思いを寄せて、いろいろな事に感謝の気持ちをもってくれたらなあと思います。

今日は、七夕の話をしました。夏休みまで、あと18日、その中には、土日や4連休もありますから、学校に来るのは実質12日間です。もう少しですから、みんなで協力しながら、学校生活を一生懸命に頑張っていきましょう。



◆ 第3弾 2020. 地域と共に創る学校づくり ～ 心豊かな古枝っ子を目指して

<3年面浮立の学習～知りたいな、わたし達のまちのふりゅう>

本校の3年生は毎年1学期に、木彫刻師である小森恵雲先生（杉彫）のご指導の下、「浮立面」を制作し、9月の運動会では、その面を付けて、4年生と一緒に「面浮立」を踊ります。



本年度の3年生は、「浮立面」の制作の前に、総合的な学習の時間を使って、鹿島市が誇る伝統芸能「面浮立」について学習を深め、「浮立面」の制作、そして、運動会での「面浮立」の演技につなげようと「面浮立の学習」に取り組むことにしました。

① 3年「面浮立」の学習計画会議、調べ学習等（5月22日 金曜日、28日 金曜日、6月5日 金曜日）

まずは、子ども達による、「面浮立の学習」の学習計画会議を行いました。子ども達は、グループに分かれて、面浮立の何を調べたいのか、そして、どうやって調べていくのか、誰に聞いたら分かるか、等々、みんなで調べる方法（学習計画）について話し合い、発表し合いました。

2日目は、パソコンを使って、調べ学習を行いました。小学生になって、初めてのパソコン室での学習に、子ども達の学習意欲もさらに高まり、子ども達同士互いに助け合いながら「面浮立」についての情報をどんどん取得していきました。

3日目は、面浮立について調べたことを発表し合う「中間報告会」を行いました。1人2分程度のプチ発表会です。パソコンで調べたこと、お家の人から聞いたこと、疑問に思ったこと等々、互いに面浮立の情報を発表し合うことで、知識を深めていきました。



【学習計画会議】



【学習計画会議】



【調べ学習】



【調べ学習】



【中間報告会】

② 3年「恵雲先生」との学習会（6月16日 火曜日）

6月16日（火）2時間目、小森恵雲先生をお招きして、面浮立の学習会を行いました。恵雲先生からは、面浮立の由来や、浮立面にはオスの面とメスの面があること、地域によって少しずつ面の形に違いがあること、面浮立の踊りが音成系と母ヶ浦系に分かれること、面作りに使う材料や制作期間等々、面浮立についていろいろなことを学びました。そして、地元传统文化を大切に守ってほしいという、恵雲先生の思いを知りました。



③ 3年「上古枝の面浮立」を学ぼう！（7月1日 水曜日）

7月1日（火）2時間目、体育館に上古枝浮立保存会の5名の皆さんをお招きして、面浮立の学習をさらに深めました。はじめに、オープニングとして、上古枝浮立保存会の皆さんによる面浮立が、子ども達の前で披露されました。子ども達にとって、本物の面浮立の踊りを間近に見ることは初めてのことで、とても貴重な体験となりました。3年生の鶴健成くんも上古枝浮立保存会の一員として、本日の踊りに加わり、見事な浮立の舞を披露してくれました。子ども達は、上古枝面浮立の勇壮な踊りに圧倒され、目が釘付けとなっていたのが印象的でした。

面浮立の踊りが終わった後、上古枝地区の中村区長さんから挨拶があり、その中で、上古枝面浮立の由来などについて話がありました。その後、子ども達のインタビューとなり、「上古枝面浮立はいつからあるの?」「どれくらい練習するの?」「どんな種類の踊りがあって、どんな意味があるの?」「手と足を振り上げる動作の意味は?」「かっこよく踊るポイントは?」等々、たくさんの質問が出ました。最後は、子ども達と上古枝浮立保存会の皆さんとのふれあいタイムです。太鼓を叩いたり、本物の面をかぶったり、いろいろ質問したり…と、子ども達にとって楽しい学習会となりました。上古枝浮立保存会の皆様、ご協力ありがとうございました。



【オープニング】



【インタビュー活動】



【メモを取る子ども達】



【ふれあいタイム】



【ふれあいタイム】

④ 3年「浮立面作り」～型作り・色塗り（7月9日 木曜日 7月21日 火曜日）

7月9日（木）小森恵雲先生のご指導の下、浮立面作りがよいよスタートしました。この日は、3時間ほどかけて、浮立面の型作りを行いました。子ども達は、紙粘土を薄く伸ばし、浮立面の型版に押し込んでいきます。空気を入れないように紙粘土を伸ばしたり押し込んだりするのが難しかったようですが、みんな一生懸命取り組み、立派な浮立面の型ができました。

7月21日（火）は、いよいよ浮立面の色塗り作業です。筆を使って丁寧に色塗りを行います。最後はシャグマを付けて完成です。子ども達は、立派にでき上がった浮立面を見ながらとても満足そうに笑顔が弾けていました。恵雲先生、今年もありがとうございました。



【浮立面型作り】



【浮立面色塗り】